

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

| | |
|-----|--------------|
| 園名 | 台東区立石浜橋場こども園 |
| 所在地 | 台東区橋場1-35-1 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な環境に関わり探究する幼児(自然から学ぼうプロジェクト)

<テーマの設定理由>

- ・自然が少ない都内の園であるが、野菜、植物の栽培や虫の観察、自然の会などを通して様々な自然に触れることで、感性を豊かにし、知的好奇心を広げていきたい。
- ・自然物を活用した体験を通して、発見や不思議に思う気持ちなど学びの芽を培いたい。

2. 活動スケジュール

- ・野菜の一人一鉢栽培、親子での栽培、学級、園全体での野菜、草花の栽培をする。
- ・プロナチュラリストの佐々木洋先生を招聘し、年間2回自然観察を行う
- ・玉ねぎの皮を使用した染物体験をする。
- ・自然物を使った色水遊び、ごちそうづくり、製作、虫探し、飼育物の世話などを通して興味をもったことについて、図鑑で調べたり、よく観察したりする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 栽培物を大切に育てることができるよう
・土、苗、植木鉢、水やりなどの栽培に必要な環境、観察しやすい場の充実
 - さまざまな自然物や自然事象に興味・関心がもてるように
・園庭の環境の充実(ダンゴムシハウス、ざっそうレストラン、)や興味・関心を深めるために図鑑や虫かごなどの購入
- 【今年度新しい取組】**
- 生き物に親しみが感じられるように
・多くの人を通る玄関に生き物 Labo の設置
 - 「わあ、不思議」と思える体験ができるように
・身近な素材を使った染物体験

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- 一人一鉢ずつ野菜の苗を植え、毎日継続して行き、収穫したものは、家庭に持って帰った。
- 自然の会では、その環境に応じた講師の話聞き、実際ににおいをかいだり、触ってみたりして、虫や鳥、木、草花などについて新たな発見をした。
- 園庭でハーブや花などを栽培し、においや色を楽しみながら色水作りやごちそう作りなどを楽しんだ。

- 園庭に虫の好む場や玄関に生き物 LABO を設定し、図鑑で調べたりして興味・関心を深めたり、鈴虫やカブトムシやうなぎなどをじっくり観察できるようにした。
- デジタル顕微鏡やライトテーブルを設置し、興味をもったことを自分なりに試した。
- 給食の玉ねぎの皮を利用した染物体験をした。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- カブトムシが飼育ケースの見えるところでさなぎになっているのを見ながら、年長児が「さなぎは触ってはいけない」ことを隣にいた年少児に伝える。すると、年少児は同じクラスの友達のところに行き、「触っちゃダメなんだって」と話す。保育者が、前に飼育していたアゲハ蝶のさなぎとは形が違う(カブトムシはカブトムシの形でさなぎになっている)ことを年長児に話すと、その後図鑑を持ってきて様々な昆虫のさなぎについて調べ始めた。
- 草花を使った色水遊びをたくさん楽しんできたので、違う体験として、染物をできるように準備した。玉ねぎの皮を煮出した汁の入っている鍋を見て「給食と同じ匂いがする」と言ったり、水の冷たさを感じたりしていた。また、輪ゴムで縛っていたところは染まっていないことに気づき「なんで？なんでだろう」と不思議がる姿も見られた。

<活動の様子>

【生き物 Labo】



【玉ねぎの皮で染物体験】



【デジタル顕微鏡】



【光を感じる遊び】



5. 振り返り

○生き物 Labo では、年長児が自分の知っている知識を年少児に話しながら一緒に生き物や図鑑を見る姿があり、異年齢の交流にもつながった。そのことが嬉しく、より様々なことを知ろうとする年長児の姿や教えてもらったことを友達に教える年少児の姿も見られた。異年齢で同じ場を共有したことで、知識の深まりや伝達に繋がっていくことを感じられた。

○植物を使った色水遊びは今までも楽しんできた。そこで、今年度は身近な玉ねぎの皮を使った染物体験を取り入れた。玉ねぎの皮は給食の食材から出た皮をもらい、より身近に感じられるようにした。真っ白い布が、玉ねぎの皮と共に鍋に入れて煮ることで茶色く染まり、更にビー玉と輪ゴムを使って結んでいたところは模様になり、魔法の水(ミョウバン液)に入れると茶色かった布が鮮やかな黄色に変わった。「わあ不思議、なんでだろう」の言葉が子供たちの中からたくさん聞かれた。さらに「もっとこうしたら」「次はこうしてみようよ」と次々子供たちから言葉が聞かれた。このことが、探求の芽となっていくことを実感することができた。

次年度は、園で栽培している植物(シソ)での染物も計画している。

○電子顕微鏡やライトテーブルを使用した光を感じる遊びなどを遊びに取り入れたことで、「不思議」「面白い」「次は」と次々思ったこと言ったり考えたことを試してみたりする姿が見られた。このような子供たちの姿から、次年度は、<生き物 Labo>のような<探求 Labo>コーナーを設置したいと考えている。